令和6(2024)年度



かわさき市民アンケート概要版

調査目的等

調査目的	市民の定住状況、市政に対する評価と要望などの継続的に行ってきた調査に加え、いくつかのテーマについて、市民の生活意識や行政に対する意識を調査し、市政運営や政策立案の参考資料とすることを目的に実施	
調査経緯	昭和50(1975)年度から毎年1回実施していた「市民意識実態調査」を、より多くのテーマ、より多くの対象に調査するために、調査回数を年2回に拡充し、名称を変更して平成18年(2006)年度から実施することとしたもの	
調査地域	川崎市全域	
調査対象	川崎市在住の満 18 歳以上の個人	

調査方法等

	第1回アンケート	第2回アンケート
調査方法	インターネット調査	郵送調査
標本抽出	インターネットモニター登録者から抽出	住民基本台帳からの層化無作為抽出
標本数	1,500標本回収まで	3,000標本
有効回収数	1,500	1,390
有効回収率		46.3%
調査期間	令和6年8月23日 (金) から 9月6日 (金) まで	令和6年10月29日 (火) から 12月13日 (金) まで
調査項目	・災害に対する備えについて・かわさきの農業について・地域における多文化共生に関する意識について	・定住状況について・生活環境の評価について・関心ごとと行動範囲について・市政に対する評価と要望について・これからの区役所などのあり方について・脱炭素社会の実現について

[※]表中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、数値の合計が100にならない場合や、複数の項目の数値 の合計が本文中の数値と一致しない場合があります。

[※]当冊子は、調査結果の一部を抜粋したものです。各設問の番号は、調査票と同じ設問番号を記載しています。

[※]インターネット調査は、対象者を母集団から無作為抽出しているものではないため、母集団推定ができない調査方法であり、 回答傾向から課題を発見するプリテストに適した調査方法です。

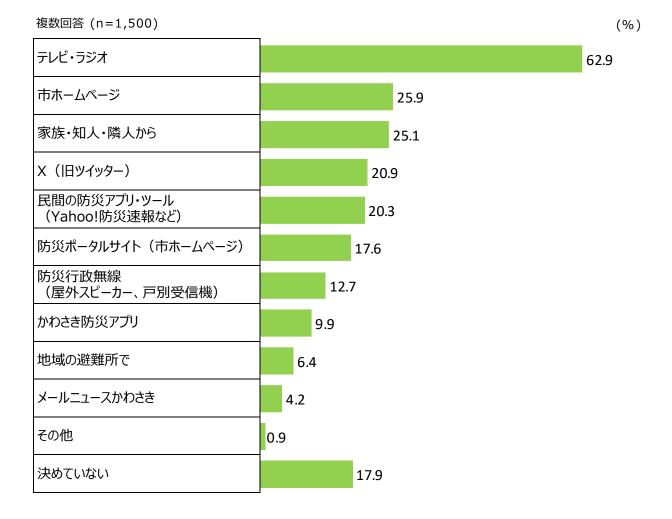
1 災害に対する備えについて

1 災害時の情報入手手段

Q1. 災害時、必要となる情報をどのような手段で入手しますか。

「テレビ・ラジオ」が62.9%と最も高く、次いで「市ホームページ」(25.9%)、「家族・知人・隣人から」(25.1%)、「X(旧ツイッター)」(20.9%)、「民間の防災アプリ・ツール(Yahoo!防災速報など)」(20.3%)までが2割以上となっている。一方、「決めていない」は17.9%であった。

【図表 1】災害時の情報入手手段(複数回答)



2 家庭における備蓄の状況

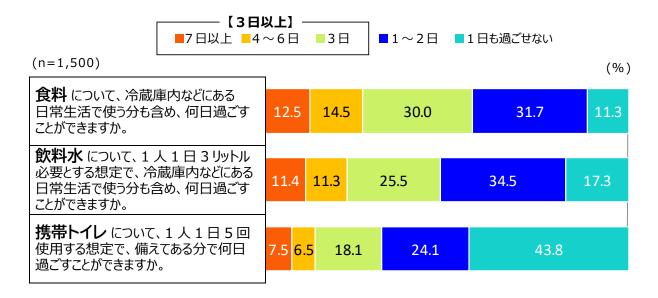
Q3. 地震に関し、あなたが行っている家庭での備えについてうかがいます。 今日現在の状況で、項目ごとにあてはまるものを選んでください。

【この設問では、地震による以下の被害状況を想定しています】

- ・大規模な地震であり、お住いの地域では一部木造住宅の倒壊や火災などが発生。
- ・自宅は無事で生活は可能だが、電気・水道・下水道・ガスが使用できなく、電話もつながりにくい。

家庭における備蓄について、川崎市では最低限3日分、できれば7日分以上必要としているが、【3日以上】(「7日以上」、「4~6日」、「3日」の合計)の割合は、「食料」が57.1%、「飲料水」が48.3%、「携帯トイレ」が32.1%であった。また、「7日以上」と回答した割合は、「食料」が12.5%、「飲料水」が11.4%、「携帯トイレ」は7.5%であった。一方、「携帯トイレ」については、「1日も過ごせない」と回答した割合が43.8%と4割を超えている。

【図表 2】家庭における備蓄の状況

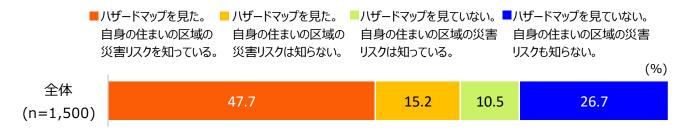


3 ハザードマップの閲覧・内容認知状況

Q4. 川崎市が発行している洪水や内水、土砂災害のハザードマップを見たことがありますか。 また、ご自身のお住まいが、洪水や内水による浸水や、土砂災害の区域内にあるか否かを知って いますか。

「ハザードマップを見た。自身の住まいの区域の災害リスクを知っている。」(47.7%)が最も高く、次いで「ハザードマップを見ていない。自身の住まいの区域の災害リスクも知らない。」(26.7%)、「ハザードマップを見た。自身の住まいの区域の災害リスクは知らない。」(15.2%)と続いている。

【図表 3】ハザードマップの閲覧・内容認知状況



4 マイタイムラインの作成状況

Q 5. 川崎市では、大雨や台風などの風水害に備えて、生活の状況に合わせた避難行動(自分の逃げ方)をマイタイムラインとして平常時に作成することを推奨していますが、あなたは作成していますか。

「マイタイムラインを作成している」が4.3%、「マイタイムラインを作成していない」が95.7%であった。

■マイタイムラインを作成している
■マイタイムラインを作成していない
(%)
全体
(n=1,500)
4.3

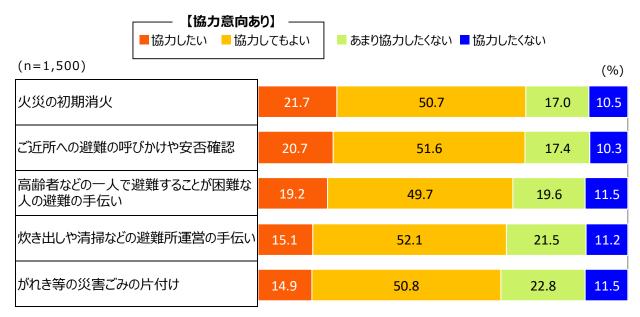
【図表 4】マイタイムラインの作成状況

5 災害時に地域で行う活動への協力意向

Q 7. 災害時、ご自身やご家族が無事な場合に、あなたは地域で行う活動へどの程度協力したいと思いますか。項目ごとにあてはまるものを選んでください。

「協力したい」と「協力してもよい」を合計した【協力意向あり】の割合は、全ての項目において 6 割を超え、「火災の初期消火」と「ご近所への避難の呼びかけや安否確認」では 7 割を超えている。

【図表 5】災害時に地域で行う活動への協力意向



2 かわさきの農業について

1 かわさきの農業についての認知

Q8. かわさきの農業について、次の項目を知っていますか。

「知っている、聞いたことがある」の割合は、「市内で農業が行われていること」では51.9%と半数を超えているが、その他の項目では4割を下回り、「「菜果ちゃん」(「かわさきそだち」の販売を促進するために誕生した PR キャラクター)」は12.5%にとどまっている。

■知っている、聞いたことがある ■知らなかった (n=1,500)(%) 市内で農業が行われていること 51.9 48.1 農家の軒先や敷地に設置している 39.1 60.9 「農産物直売所」が市内にあること 「セレサモス」(JA セレサ川崎が宮前区と 36.9 63.1 麻牛区で運営する大型の農産物直売所) 「かわさきそだち」(川崎市内農産物の総称) 21.5 78.5 「菜果ちゃん」(「かわさきそだち」の販売を 12.5 87.5 促進するために誕生した PR キャラクター)

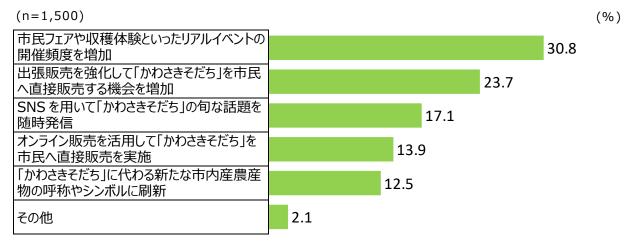
【図表 6】かわさきの農業についての認知

2 「かわさきの農業」の情報発信にあたり効果がありそうな方法

Q9. 今後、市が「かわさきの農業」を更に情報発信するにあたって、最も効果がありそうだと思う方法を次の中から選んでください。

「市民フェアや収穫体験といったリアルイベントの開催頻度を増加」が30.8%と最も高く、次いで「出張販売を強化して「かわさきそだち」を市民へ直接販売する機会を増加」(23.7%)、「SNS を用いて「かわさきそだち」の旬な話題を随時発信」(17.1%)、「オンライン販売を活用して「かわさきそだち」を市民へ直接販売を実施」(13.9%)と続いている。

【図表 7】「かわさきの農業」の情報発信にあたり効果がありそうな方法

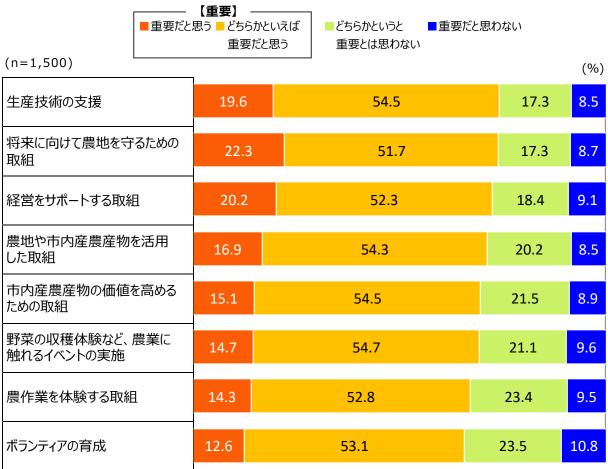


3 川崎市の「農業」に対する取組の重要度

Q11. 次の川崎市の「農業」に対する取組はどの程度重要だと思いますか。 それぞれの項目ごとにあてはまるものを1つずつ選んでください。

「重要だと思う」と「どちらかといえば重要だと思う」を合計した【重要】は、「生産技術の支援(野菜や果実、花の栽培に関する試験研究や農業者への技術指導)」(74.1%)が最も高く、次いで「将来に向けて農地を守るための取組(「生産緑地地区」の指定や農地の貸借の促進など農地を残していく取組)」(73.9%)、「経営をサポートする取組(農作業を効率化したり、生産量を増やすためのハウスや設備導入の支援)」(72.5%)、「農地や市内産農産物を活用した取組(学校給食などを通じた「食農教育」、「福祉農園」としての農園活用)」(71.3%)と、ここまでが7割を超えている。

【図表 8】川崎市の「農業」に対する取組の重要度



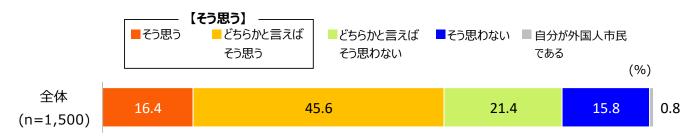
3 地域における多文化共生に関する意識について

1 外国人市民と共に暮らすことが身近になっていると感じる程度

Q12. あなたは、自分の暮らす地域で外国人市民と共に暮らすことが身近になってきていると感じますか。

「そう思う」(16.4%) と「どちらかと言えばそう思う」(45.6%) を合計した【そう思う】の割合は62.0% と、6割を超えている。

【図表 9】外国人市民と共に暮らすことが身近になっていると感じる程度

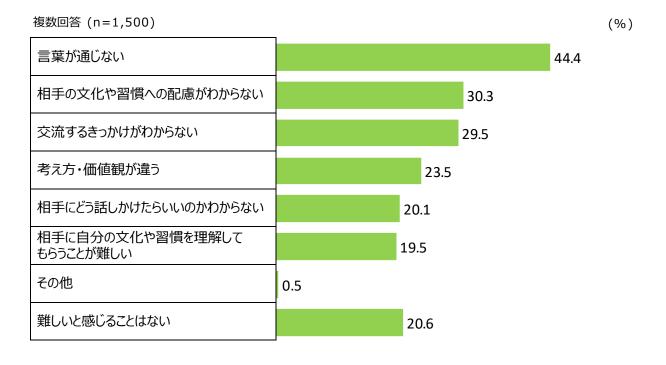


2 国籍の異なる市民との交流で難しいと思ったこと

Q15. あなたは、国籍の異なる市民との交流でこれまでに難しいと思ったこと、または今後交流するに あたり難しいと感じていることはありますか。

「言葉が通じない」が44.4%と最も高く、次いで「相手の文化や習慣への配慮がわからない」 (30.3%)、「交流するきっかけがわからない」 (29.5%)、「考え方・価値観が違う」 (23.5%)と続いている。一方、「難しいと感じることはない」 (20.6%) との回答も2割ほど見られた。

【図表 10】国籍の異なる市民との交流で難しいと思ったこと(複数回答)



3 国籍の異なる市民が地域で相互理解を深めるためにできること

Q17. 国籍の異なる市民が地域で相互理解を深めるためにあなたができることは何ですか。

「あいさつをする」が55.9%と最も高く、次いで「差別意識を持たないようにする」(25.7%)、「話しかけるときは、できるだけ〈やさしい日本語〉を使うなど工夫をする」(24.4%)、「困っている外国人市民がいたら声をかける」(19.4%)と続いている。

【図表 11】国籍の異なる市民が地域で相互理解を深めるためにできること(複数回答)

(%) 複数回答 (n=1,500) あいさつをする 55.9 差別意識を持たないようにする 25.7 話しかけるときは、できるだけ 24.4 〈やさしい日本語〉を使うなど工夫をする 困っている外国人市民がいたら声をかける 19.4 異なる文化や生活習慣などについて 19.2 理解を深める 地域の行事、イベントなどに外国人市民が 16.1 参加しやすい環境を作る 地域のルールなどを教える 15.8 多文化共生の考え方について理解を深める 14.5 自分自身が外国語を習う 13.1 外国人市民に日本語を教える 9.8 外国人市民を支援するボランティア活動に 5.8 参加する その他 0.5 わからない 7.2 できることはない 9.4

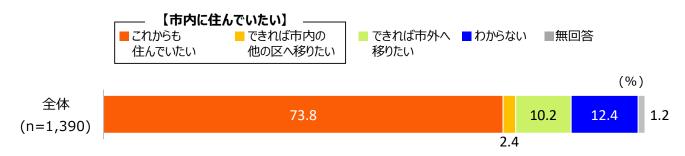
4 定住状況について

1 定住意向

問2. あなたは、これからも現在の区にお住まいになりたいですか。

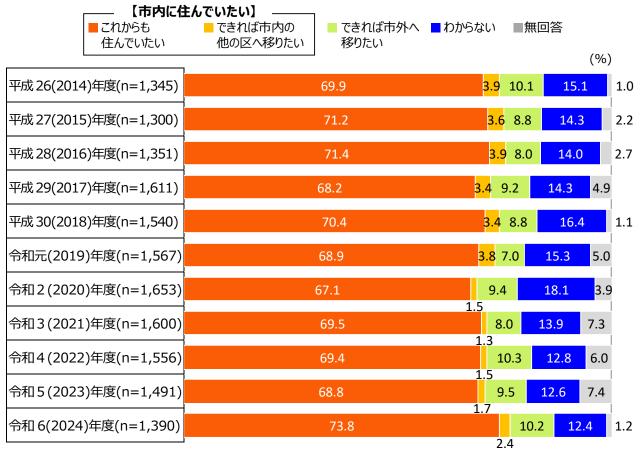
「これからも住んでいたい」(73.8%) と「できれば市内の他の区へ移りたい」(2.4%) を合計した【市内に住んでいたい】は76.2%であった。「できれば市外へ移りたい」は10.2%であった。

【図表 12】定住意向



「これからも住んでいたい」は昨年度(令和 5 年度)から5.0ポイント増加して73.8%となり、過去10年間で最も高くなっている。

【図表 13】定住意向(経年比較)



※令和2年度までの設問文は「これからも今のところにお住まいになりたいですか」で実施

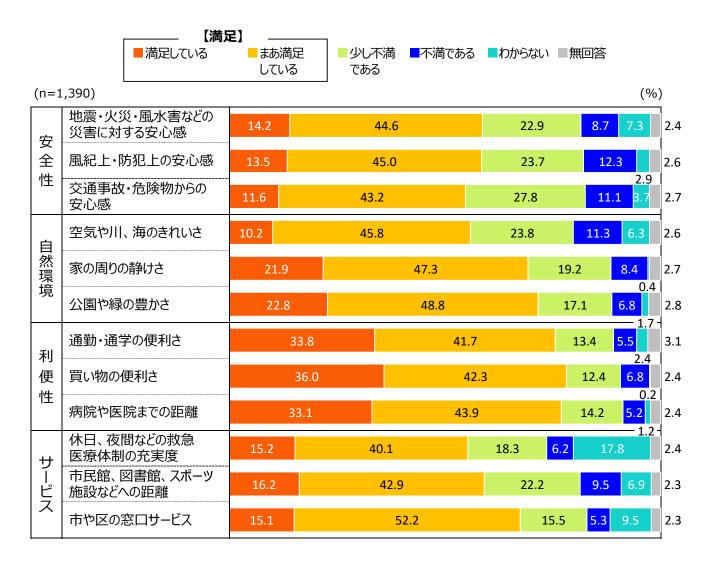
5 生活環境の評価について

1 生活環境の満足度

問 5. お住まいの周りの生活環境についてうかがいます。あなたは、次にあげる項目についてどの程度 満足していますか。

生活環境の満足度について、「満足している」と「まあ満足している」を合計した【満足】は、『利便性』の項目が高く、「買い物の便利さ」(78.3%)、「病院や医院までの距離」(77.0%)、「通勤・通学の便利さ」(75.5%)、いずれも7割台後半となっている。一方、『安全性』の項目は3項目とも【満足】が5割台にとどまり、中でも「交通事故・危険物からの安心感」(54.7%)が最も低くなっている。

【図表 14】生活環境の満足度

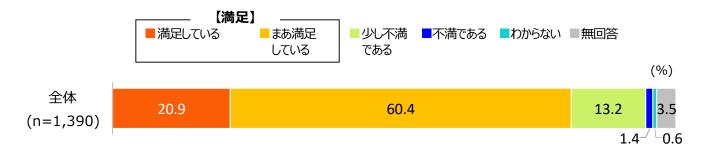


2 総合的な生活環境の満足度

問6. あなたは、地域の生活環境を総合的に見た場合、今住んでいる地域にどの程度満足していますか。

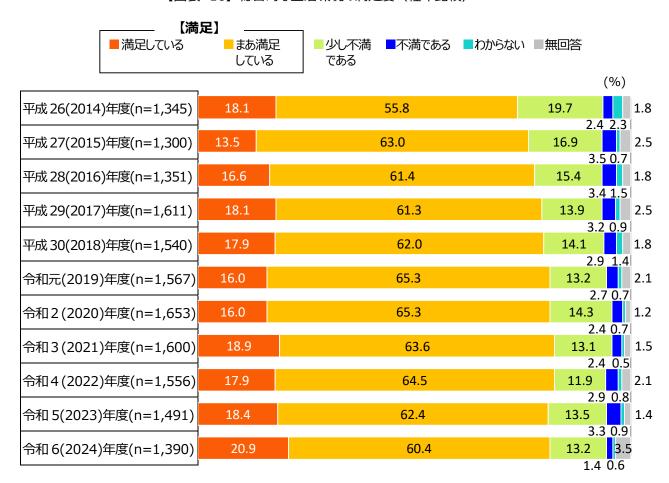
「満足している」(20.9%) と「まあ満足している」(60.4%) を合計した【満足】は81.3%であった。

【図表 15】総合的な生活環境の満足度



過去の推移では、【満足】は令和元(2019)年度以降8割台前半で推移しているが、10年前(平成26年度)と比較すると7.4ポイントの増加となっている。

【図表 16】総合的な生活環境の満足度(経年比較)



6 市政に対する評価と要望について

1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

問9. 川崎市の市政について総合的にうかがいます。あなたは、川崎市が行っている施策や事業の中で、よくやっていると思われるものはどれですか。

「日常のごみ収集やリサイクル」(50.5%)が最も高く、次いで「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(31.5%)、「水道水の安定供給」(27.9%)と続いている。

【図表 17】市政の仕事でよくやっていると思うこと《上位 25 項目》(複数回答)

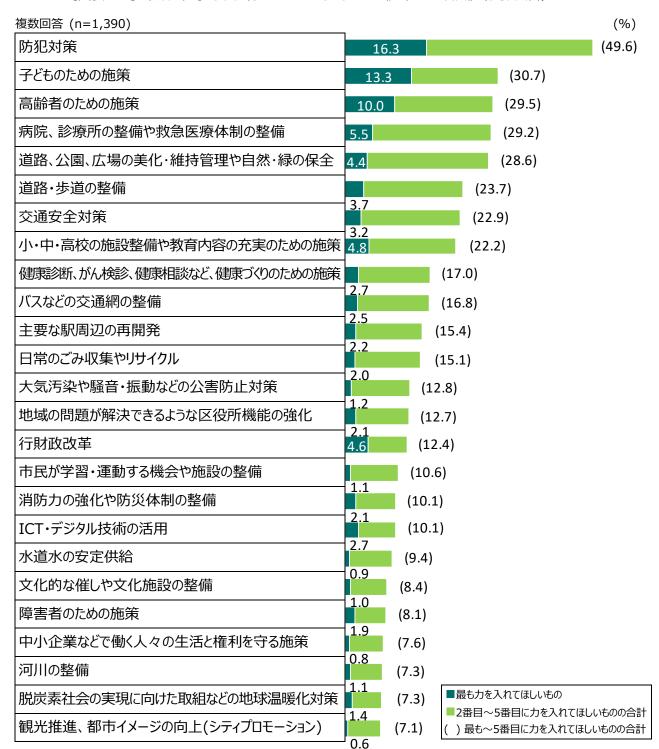


2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

問 10. 問 9 の川崎市が行っている施策や事業の中で、今後特に力を入れてほしいものはどれですか。 最も力を入れてほしいものから、順に 5 つ選んでください。

「最も力を入れてほしいもの」~「5番目に力を入れてほしいもの」の合計は、「防犯対策」(49.6%)が最も高く、次いで「子どものための施策」(30.7%)、「高齢者のための施策」(29.5%)と続いている。なお、「最も力を入れてほしいもの」だけで見た場合、第4位までは同順位であるが、「小・中・高校の施設整備や教育内容の充実のための施策」が第5位、「行財政改革」が第6位となっている。

【図表 18】市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと《上位 25 項目》(複数回答)



過去の調査結果と比較すると、「防犯対策」は全て1位で、上位5項目は令和3年度以降同じ項目となっているが、今回は「子どものための施策」と「高齢者のための施策」の順位が上がっている。

令和元年 令和5年 令和6年 令和2年 令和3年 令和4年 (n=1,390)(n=1,567)(n=1,653)(n=1,600)(n=1,556)(n=1,491)防犯 防犯 防犯 防犯 防犯 防犯 1位 52.6% 48.3% 39.8% 36.8% 36.7% 49.6% 美化・ 医療体制 医療体制 医療体制 医療体制 子ども 緑の保全 2位 30.7% 44.4% 46.3% 36.3% 33.6% 32.8% 美化・ 子ども 河川の整備 道路:歩道 子ども 高齢者 緑の保全 30.0% 3位 美化・緑の保全 44.1% 41.0% 31.0% 30.3% 29.5% 30.0% 美化・ 医療体制 子ども 高齢者 医療体制 緑の保全 4位 43.8% 40.6% 30.4% 29.6% 29.2% 美化・ 美化・ 高齢者 子ども 高齢者 高齢者 緑の保全 緑の保全 5位 43.3% 40.5% 26.4% 27.8% 29.9% 28.6% 6位 7位 6位 道路:歩道 高齢者 道路•歩道 39.9% 42.5% 24.1% 8位 10位 河川の整備 子ども 38.7% 34.2%

【図表 19】市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと(複数回答) (過去の調査の上位5項目推移)

※令和2年度までは選択肢に制限を設けない複数回答にて実施

3 施策や事業の総合的な満足度

問 11. あなたは、川崎市が進めている施策や事業を総合的に見た場合、どの程度満足していますか。

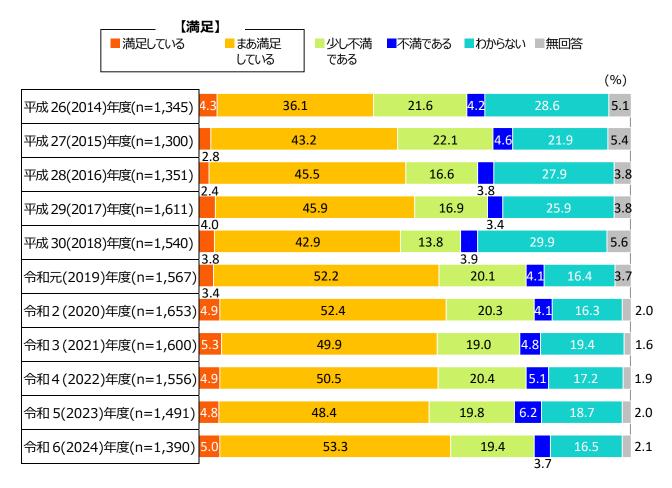
「満足している」(5.0%) と「まあ満足している」(53.3%) を合計した【満足】は58.3%であった。

【図表 20】施策や事業の総合的な満足度



過去の推移を見ると、【満足】は昨年度(令和 5 年度)から5.0ポイント増加し、過去10年間で最も高くなっている。

【図表 21】施策や事業の総合的な満足度(経年比較)



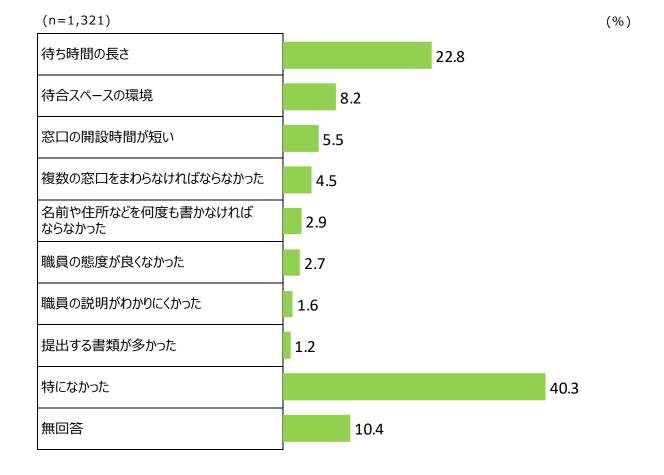
7 これからの区役所などのあり方について

1 区役所などの窓口を訪れた際に改善が必要だと感じたこと

問 13. これまで区役所などの窓口を訪れた際に、改善が必要だと感じたものはどれですか。 最もあてはまるものを 1 つ選んでください。

これまでに区役所などに来庁経験がある方に、改善が必要だと感じたことについてたずねたところ、「待ち時間の長さ」が22.8%と最も高く、次いで「待合スペースの環境」(8.2%)、「窓口の開設時間が短い」(5.5%)と続いている。一方、「特になかった」(40.3%)は約4割であった。

【図表 22】区役所などの窓口を訪れた際に改善が必要だと感じたこと



2 川崎市が提供するオンライン手続サービスの認知状況

問 14. 川崎市が提供するオンライン手続サービス*を知っていますか。

※オンライン手続かわさき(e-KAWASAKI)、川崎市簡易版電子申請サービス(LoGo フォーム)

「知っていて、利用したことがある」(15.8%)と「知っているが、利用したことはない」(29.9%)を合計した【知っている】は45.8%であった。一方で、「知らない、わからない」(52.5%)が5割を超えている。

【図表 23】川崎市が提供するオンライン手続サービスの認知状況



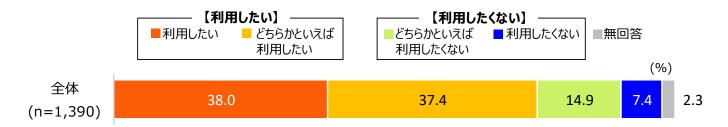
3 川崎市が提供するオンライン手続サービスの利用意向

問 15. 川崎市が提供するオンライン手続サービス[※]を今後利用したいと思いますか。

※オンライン手続かわさき(e-KAWASAKI)、川崎市簡易版電子申請サービス(LoGo フォーム)

「利用したい」(38.0%)と「どちらかといえば利用したい」(37.4%)を合計した【利用したい】は75.4%であった。一方で、「どちらかといえば利用したくない」(14.9%)と「利用したくない」(7.4%)を合計した【利用したくない】は22.3%となっている。

【図表 24】川崎市が提供するオンライン手続サービスの利用意向

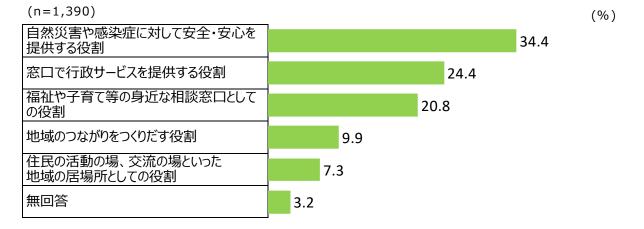


4 これからの区役所などに期待する役割

問 18. これからの区役所などに、どのような役割を期待しますか。 最もあてはまるものを 1 つ選んでください。

「自然災害や感染症に対して安全・安心を提供する役割」が34.4%と最も高く、次いで「窓口で行政サービスを提供する役割」(24.4%)、「福祉や子育て等の身近な相談窓口としての役割」(20.8%)と続いている。

【図表 25】これからの区役所などに期待する役割

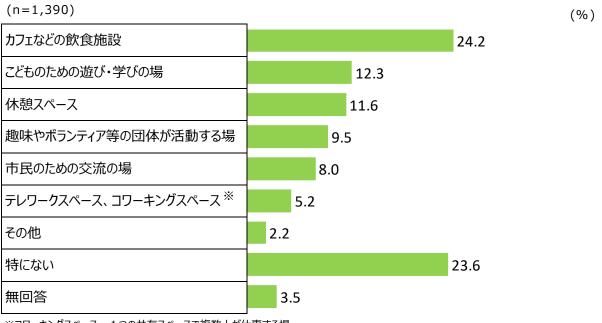


5 区役所などにあると良いと思う場

問 19. 区役所などにどのような場があると良いと思いますか。 最もあてはまるものを1つ選んでください。

「カフェなどの飲食施設」が24.2%と最も高く、次いで「こどものための遊び・学びの場」(12.3%)、「休憩スペース」(11.6%)と続いている。一方で、「特にない」は23.6%であった。

【図表 26】区役所などにあると良いと思う場



※コワーキングスペース…1つの共有スペースで複数人が仕事する場

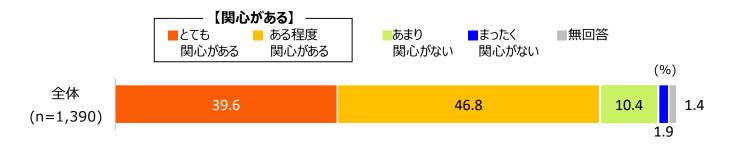
8 脱炭素社会の実現について

1 地球温暖化の進行に伴う気候変動などへの関心の程度

問 20. 昨今の地球温暖化の進行に伴う気候変動や激甚・頻発化する豪雨災害などについて、どの程度関心がありますか。

「関心がある」(39.6%) と「ある程度関心がある」(46.8%) を合計した【関心がある】は86.3%であった。

【図表 27】地球温暖化の進行に伴う気候変動などへの関心の程度

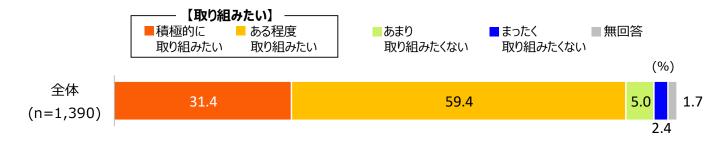


2 脱炭素社会の実現に向けた「緩和策」の取組意向

問 22. 脱炭素社会の実現に向けて、一人ひとりが温室効果ガスの排出量を減らす取組を緩和策といいますが、あなたは緩和策に取り組むことについてどのようにお考えですか。

「積極的に取り組みたい」(31.4%)と「ある程度取り組みたい」(59.4%)を合計した【取り組みたい】は90.9%と約9割を占めた。

【図表 28】 脱炭素社会の実現に向けた「緩和策」の取組意向

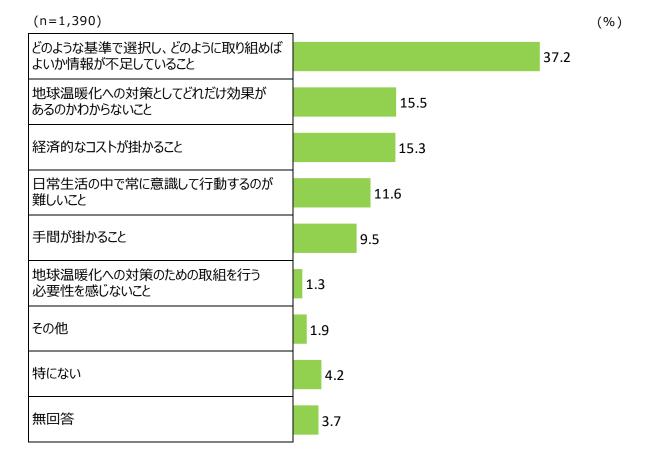


3 地球温暖化の緩和策を行う上で妨げになっていること

問 23. 地球温暖化の緩和策について、あなたが行う上で、妨げになっていることは何ですか。

「どのような基準で選択し、どのように取り組めばよいか情報が不足していること」が37.2%と最も高く、次いで「地球温暖化への対策としてどれだけ効果があるのかわからないこと」(15.5%)、「経済的なコストが掛かること」(15.3%)と続いている。

【図表 29】地球温暖化の緩和策を行う上で妨げになっていること

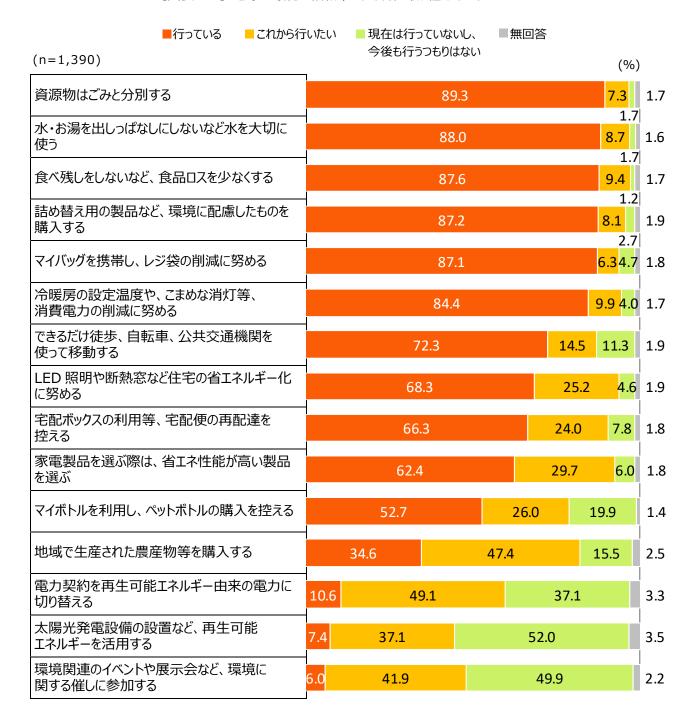


4 地球温暖化の緩和策として現在取り組んでいること

問 24. 脱炭素社会の実現に向けて、個人でできる地球温暖化の緩和策として、あなたが現在取り組んでいることはありますか。

「行っている」割合は、「資源物はごみと分別する」が89.3%と最も高く、次いで「水・お湯を出しっぱなしにしないなど水を大切に使う」(88.0%)、「食べ残しをしないなど、食品ロスを少なくする」(87.6%)と続いている。

【図表 30】地球温暖化の緩和策として現在取り組んでいること

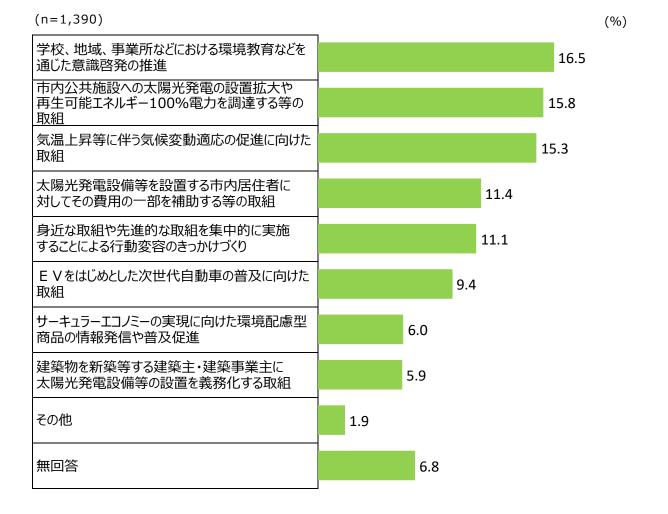


5 脱炭素社会の実現に向け、さらに力を入れてほしい取組

問 26. 川崎市では、脱炭素社会の実現に向けて、以下のような取り組みを行ってきました。 今後、さらに力を入れてほしい取組を1つ選んでください。

「学校、地域、事業所などにおける環境教育などを通じた意識啓発の推進」が16.5%と最も高く、次いで「市内公共施設への太陽光発電の設置拡大や再生可能エネルギー100%電力を調達する等の取組」(15.8%)、「気温上昇等に伴う気候変動適応の促進に向けた取組」(15.3%)と続いている。

【図表 31】脱炭素社会の実現に向け、さらに力を入れてほしい取組



令和 6(2024)年度 かわさき市民アンケート概要版 令和 7 年 3 月発行

発行 川崎市総務企画局都市政策部企画調整課 〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地 電話 044-200-2148 (直通) FAX 044-200-0401